

シェアリングエコノミー万歳!?



金属労協(JCM)事務局長
浅 沼 弘 一

昨年シンガポールに出張した時に、招待してくれた現地の労働組合が、レセプション会場から直接空港に向かわなければならない私のために、タクシーを用意してくれました。車は、黒のベンツで、革張りシートの高級車だったと記憶しています。運転している若い男性の話を聞いてみると、自分は大学生だと言います。知らずに乗っていたのですが、この車は普通のタクシーではなく、Uber^{注1}に登録された車だったようです。運転手(?)の現役大学生は、大の車好きだそうで、おそらく無理して頭金を作って、借金して車を買ったんでしょう。返済のために、授業のない時には、Uberに登録して、お客さんからのリクエストを待っているそうです。彼にしてみると、どうせ空いている時間だし、好きな車を運転しながらお金も稼げるということで一石二鳥ということでしょう。

使う側にとっても、タクシーほど高くなく、時間を指定しておけば所定の場所に迎えに来てくれて、さらに革張りの高級車でお出迎えということになれば、大満足なわけです。おまけに、日本のタクシーのようなタクシーらしい装置はまったくなく、あるのはダッシュボードにつけられたiPadだけ。無事私を空港まで送り届けた彼のところには、ネット経由で契約通りの料金が振り込まれるはず。どこを通ったかは、iPadが記録しているし、トラブルがあれば、料金を送金しなければ

よいのですから。

意識せず、今、流行りのシェアリングエコノミーの一端を経験したわけです。これまた流行りのairbnb(エアビーアンドビー)^{注2}をはじめとした規制緩和が議論されている「民泊」もこの仲間でしょう。自分の持っている資産(車とか部屋とか)の空いていて使っていない部分を、自分以外の人に使ってもらい、それによって、互いに利益を得るといって、めでたく一挙両得です。

話は少しずれますが、流行のインダストリー4.0やインダストリアルインターネットにもシェアリングエコノミーのような側面があるのではないかと思います。どうしてもIoTや人工知能、ビッグデータのような目新しくして華々しい技術が、前面に出てきますが、本質はもっと地味なものです。これまで機械やコンピュータなどの工業製品やソフトウェアの分野で地道に行われてきた、モジュール化や標準化の考え方を、ものを作る工程にまで適用しようというのが、重要な変革点ではなからうかと思うのです。

あくまでイメージですが、たとえば、工場にある生産機械を例にとれば、その性能やコストをあらゆる情報、稼働状況に関する情報などが標準化されていて、いくつもの工場にある機械の情報が公開され共有されているとします。製品を作りたいメーカーは、部品を作る能力のある機械を、先ほどの公開情報からふるいにかけ、稼働状況から空いている機械を探し出し、製造を依頼します。

それぞれの製造機械は、標準化された情報によって特徴づけられ、モジュール化されることで外から見える情報はこの情報だけ。国内外のどこで稼働していようと、どれだけ古い機械であろうとかまいませぬ。メーカーからすれば、最適な方法で部品を作ることがで

きますし、工場側からすれば、機械の空いている時間に他からの製造依頼をこなすことが出来るため、保有する生産機械の稼働率を上げることが出来ます。一挙両得、シェアリングエコノミー万歳です。

しかしながら、機械の情報に、だれがどのようにその機械を動かしているのかという、「人」の側面からの情報が含まれることはありません。機械を動かす「人」を意識することが希薄になってしまわないかと心配されます。

さらには、シェアリングエコノミーの考え方が、車や家、機械などの「物」だけでなく、「人」にも広がることを心配します。個々人の能力情報を提示して、細切れになった仕事を、細切れになった時間でこなしていくということが、日本にでも現実に始まっています。WebデザインやExcelのプログラミング、アプリケーションの自宅での遠隔サポートなど、実際に提供されている仕事は細切れです。このような、いわゆるクラウドワークと呼ばれる世界の中で働くときには、雇用が不安定であることに加え、安全・衛生の考え方がなじみにくいこと、スキルを上げるための教育などの機会が得られないこと、対価が安定しないこと、「労働者」としての権利が認められるのかなど、多くの問題をはらんでいます。ドイツIGメタルの取り組み(<http://www.faircrowdwork.org/en/>)が先行例ですが、我々ものづくりの労働組合として、どのようなことが出来るのか検討を急がねばなりません。

注1) Uber(ウーバー): 米国企業ウーバー・テクノロジーズが運営する、自動車配車ウェブサイトおよび配車アプリのこと。現在、世界58カ国・地域の300都市で展開中。

注2) Airbnb: 世界最大級の宿泊予約サイト。全世界80万件以上の宿泊先が登録済み。

出所: Wikipedia